

市民協働推進課長の仕事宣言！ 進行管理表

市民協働推進課長 村山 一成

重点事業の概要 [事業名：出前講座] [目標値：講座開催数 50回]

○この事業は、リープロ3「みんなで進める新しいまちづくりプロジェクト」に位置付けられた取組みで、まちづくり活動に関する情報の共有を図るために実施する事業であり、市民の要望により、担当課職員が市の事業を直接市民に説明します。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	4月に出前講座メニューを各課と協議して、63講座中、1講座を廃止し、2講座を追加した。9月までの開催実績は25回であった。
	自己評価	開催数は目標値の半数に達し、講座参加者のアンケートでは、おおむね良好な感想であった。しかし、話し方や資料の作り方など改善すべき点も指摘されている。今後も分かりやすい講座となるよう努めたい。
	下半期への対応	講座参加者へのアンケート結果を今後の講座に活用し、より分かりやすいものとする。また、市民に興味を持ってもらえる講座となるような工夫について実施担当課と協議・調整する。
下半期	取組実績	10月から1月までの開催実績は29回であった。
	自己評価	4月から1月までの開催回数は54回であった。また、講座の担当課に依頼して引き続きアンケート調査を実施し、指摘された点をわかりやすい講座にするための参考とした。
	目標値の達成状況	目標開催回数は達成した。
	次年度への対応	利用される方々のことを考え、より幅広い分野で、わかりやすい講座内容となるよう、充実に努めたい。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

出前講座は、行政の取り組みや様々な情報を市民に知ってもらう良い機会です。行政への関心や理解を深めてもらうために、身近な問題をテーマとした講座開催や出前講座メニューの工夫などにより、より市民が利用しやすい講座とするよう努めること。

下半期

出前講座は行政の取り組みや様々な情報を市民に知ってもらう良い機会です。今後とも市民に興味を持ってもらえる講座となるような工夫をして講座のPRに努めること。

## 市民協働推進課長の仕事宣言！ 進行管理表

市民協働推進課長 村山 一成

## 重点事業の概要 [事業名：パブリック・コメント]

○この事業は、リープロ3「みんなで進める新しいまちづくりプロジェクト」に位置付けられた取組みで、市民の声を広く聴く機会の充実を図るために実施する事業です。市民に計画案等を決定前に公表し、意見、情報を求め、その意見を参考に計画等を決定します。また、いただいた意見等に対する市の考え方を公表します。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	5件のパブリック・コメントが実施され、計画案や実施結果をホームページに掲載した。
	自己評価	パブリック・コメントの実施予定を調査し、内容を把握した。パブリック・コメントの実施予定や実施結果について、市民に周知することができた。
	下半期への対応	策定が予定されている計画案等の把握に努め、担当課と協議・調整しながらパブリック・コメントを実施する。
下半期	取組実績	5件のパブリック・コメントを実施した。
	自己評価	パブリック・コメント実施担当課と協議して、実施予定や計画(案)等をホームページに掲載した。
	目標値の達成状況	年間10件のパブリック・コメントを実施した。
	次年度への対応	パブリック・コメントの実施予定を調査し、パブリック・コメントについて実施担当課と協議・調整していく。

## 所管部長（リープロ担当部長）の指示

## 上半期

制度の趣旨を周知し、パブリック・コメント実施の際は十分な広報を行うこと。

## 下半期

実施担当課と十分協議の上、十分な広報を行いパブリック・コメントを実施すること。

## 市民協働推進課長の仕事宣言！ 進行管理表

市民協働推進課長 村山 一成

## 重点事業の概要 [事業名：市長と語るふれあいトークング] [目標値：開催回数12回]

○この事業は、リープロ3「みんなで進める新しいまちづくりプロジェクト」に位置付けられた取組みで、市民の声を広く聴く機会の充実を図るために実施する事業です。市民、市民活動団体等と市長が、地域の課題、団体の活動、将来の鳥栖市について座談会形式で対談し、活動団体の活性化、市民の意見の収集に努めます。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	今年度は、主にまちづくり推進センターなどで活動するサークルの方々等を対象とし、ふれあいトークングを10回実施した。
	自己評価	市長と語るふれあいトークングは、平成19年度から昨年度までに55回開催し、広く市民の声を聴く機会となっている。上半期は、予定どおりに実施することができた。
	下半期への対応	これまでの実施内容をホームページに掲載し、市民が地域活動や市政への関心を持っていただけるよう広報したい。
下半期	取組実績	10月以降は開催していないが、上半期に開催した10回の対談内容をホームページに掲載した。
	自己評価	地域でサークル活動をする市民の方々等から、健康や文化、福祉など様々なテーマについて、意見を聴取することができた。
	目標値の達成状況	年間12回の目標は達成できなかった。
	次年度への対応	市長と語るふれあいトークングは、広く市民の声を聴く機会であり、目標回数を達成できるように、内容や実施方法について検討し実施する。

## 所管部長（リープロ担当部長）の指示

## 上半期

ふれあいトークングは市民と市長の直接対話による貴重な意見交換の場です。様々な対象者との機会を検討すること。

## 下半期

ふれあいトークングは市民と市長の直接対話による貴重な意見交換の場です。これまでの成果と課題について整理し、市民により身近な事業となるよう工夫すること。

市民協働推進課長の仕事宣言！ 進行管理表

市民協働推進課長 村山 一成

重点事業の概要 [事業名：市民提案箱、WEB提案箱] [目標値：提案件数 350件]

○この事業は、リープロ3「みんなで進める新しいまちづくりプロジェクト」に位置付けられた取組みで、市民の声を広く聴く機会の充実を図るために実施する事業です。市民からの意見、提案を行政運営に反映させるため、市民提案箱を25の公共施設等に設置、またホームページにWEB提案箱を設置し提案を受け付けます。寄せられた意見、要望については、関係各課に照会后、回答内容を把握します。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	市民提案箱、WEB提案箱への提案件数は合わせて85件あった。提案内容を各課に照会し、回答内容について報告の形で把握した。また、その中で公開承諾のものについては質問及び回答をホームページに掲載した。
	自己評価	迅速な回答と丁寧な説明に努めている。
	下半期への対応	市民提案箱に寄せられた意見に適切に対応し、その内容をホームページに掲載する。
下半期	取組実績	9月から1月までの市民提案箱、WEB提案箱への提案件数は51件だった。提案内容を各課に照会し、回答内容について報告の形で把握した。また、その中で公開承諾のものについては質問及び回答をホームページに掲載した。
	自己評価	迅速な回答と丁寧な説明に努めている。
	目標値の達成状況	4月から1月までの提案件数は136件であり、目標値には届かない状況である。
	次年度への対応	市民提案箱に寄せられた意見の早期回収に努め、適切でわかりやすい対応となるよう関係課と調整する。意見の中で公開承諾のものは、ホームページに掲載する。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

市民からの要望・苦情は、行政運営上の重要な情報と捉え、丁寧でわかりやすい表現を心がけるとともに、出来るだけ速やかに回答するよう関係課と調整すること。

下半期

提案箱への各種要望・意見に対する回答については、関係課と調整し、迅速に対応するよう努めること。また、丁寧かつ適切でわかりやすい回答内容となるよう心がけること。

## 市民協働推進課長の仕事宣言！ 進行管理表

市民協働推進課長 村山 一成

## 重点事業の概要 [事業名：まちづくり推進協議会設立・運営支援] [目標値：設置数7地区]

○この事業は、リープロ3「みんなで進める新しいまちづくりプロジェクト」に位置付けられた取組みで、地域自治組織の構築を図るために実施する事業です。これからの市民協働のまちづくりの一翼を担うまちづくり推進協議会の円滑な運営を支援し、まちづくり推進協議会での活動を通じて、地域の連携を深め、地域の活性化を図ります。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	まちづくり推進協議会の運営及び活動支援のため、地域でのまちづくり活動に対する補助金を交付するとともに、事務局に市民協働推進課の職員を派遣した。また、毎月の市報でまちづくり推進協議会の啓発を行っている。
	自己評価	まちづくり推進協議会では、複数の団体の連携による取組が行われるようになってきており、地域の連携が徐々に深まりつつある。
	下半期への対応	まちづくり推進協議会への職員派遣を引き続き実施するほか、まちづくり推進協議会等と連携しながら、さらなる取り組みの充実に向けて支援を続ける。また、弥生が丘まちづくり推進協議会の設立に関して、地元や関係各課との協議・調整を行う。
下半期	取組実績	まちづくり推進協議会の運営及び活動支援のため、事務局に市民協働推進課の職員を派遣した。また、毎月の市報やホームページ、フェイスブックでまちづくり推進協議会の広報を行ってきた。
	自己評価	各地区のまちづくり推進協議会では、「まちづくり推進計画」に基づき、複数の団体の連携による取り組みが行われるようになってきており、地域の連携が徐々に深まりつつある。
	目標値の達成状況	各地区のまちづくり推進協議会では、地域の状況に応じたまちづくり活動に取り組んでいただいている。また、新たに弥生が丘小学校区において、まちづくり推進協議会を設立するための準備が進められている。
	次年度への対応	まちづくり推進協議会への職員派遣を引き続き実施するほか、まちづくり推進協議会等と連携しながら、さらなる取り組みの充実に向けて支援を続ける。

## 所管部長（リープロ担当部長）の指示

## 上半期

まちづくり推進センターを地域活動の拠点として活用し、まちづくり推進協議会と連携、協力して、まちづくり推進協議会のさらなる活性化に向けて支援を続けること。

## 下半期

まちまちづくり推進協議会の自主的な活動がより活発になるように、支援していくこと。また、弥生が丘小学校区における新たな「まちづくり推進協議会」の設立に向け、地域の方々と十分に協議・連携し、設立準備の支援を行うこと。

## 市民協働推進課長の仕事宣言！ 進行管理表

市民協働推進課長 村山 一成

## 重点事業の概要 [事業名：弥生が丘まちづくり推進センター（仮称）建設事業]

○この事業は、リープロ3「みんなで進める新しいまちづくりプロジェクト」に位置付けられた取組みで、地域住民の活動、交流、生涯学習の場としてのコミュニティ拠点となる弥生が丘地区まちづくり推進センターを建設します。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	7月7日に弥生が丘地区住民の活動、交流拠点となる、弥生が丘まちづくり推進センター（仮称）の建築工事に着手した。
	自己評価	センターの建設に必要な諸手続きを進め、年度内の完成を目指し工事を進めることができた。
	下半期への対応	工事の安全を確保し、進捗状況の把握に努めながら、平成27年度の開設に向けて準備を行う。
下半期	取組実績	年度内の完成に向けて、工事の進捗管理に努めた。また、開設に向けて必要な備品や事務用品等の準備を行った。
	自己評価	工事の安全を確保し、センターの建設を予定通りに進めることができた。
	目標値の達成状況	本年3月までにセンターの建設は完了する見込みである。
	次年度への対応	建設事業は本年度で終了。5月ないしは6月の開設に向けて準備を行う。

## 所管部長（リープロ担当部長）の指示

## 上半期

工事の安全を確保し弥生が丘まちづくり推進センター（仮称）の建設に取り組むこと。

## 下半期

弥生が丘まちづくり推進センターの開設に向けた準備、調整に努めること。

## 市民協働推進課長の仕事宣言！ 進行管理表

市民協働推進課長 村山 一成

## 重点事業の概要 [事業名：市民活動支援事業]

○この事業は、リープロ3「みんなで進める新しいまちづくりプロジェクト」に位置付けられた取組みで、市民協働のまちづくりを進めるために実施する事業です。市民活動団体が自主的、主体的に行う公益的な事業に必要な経費の一部を補助し、市民活動の活性化及び自立化を促進します。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	4月及び7月に公開プレゼンテーションを実施し、検討懇話会での協議を経て市民活動支援事業の採択を決定し、7団体に補助金を交付した。団体と市の関係各課との役割分担等を協議し協定書を締結するとともに、活動状況の把握に努めた。
	自己評価	立ち上がり支援3団体、活性化支援4団体の事業を採択した。特に活性化支援は3回までが補助対象となり、継続して市民活動団体の活性化及び自立化を支援することで、市民協働のまちづくりにつながっている。
	下半期への対応	市民活動支援事業の活動状況の把握に努め、年度末に公開実績報告会を開催する。次年度事業の募集に向けての事業内容や広報のあり方を検討する。
下半期	取組実績	3月に採択団体による実績報告会を実施した。また、平成27年度市民活動支援事業の説明会を開催し、募集を開始した。
	自己評価	市民活動支援事業により、市民活動団体の基礎整備や活動の継続及び活性化を支援することで、市民協働のまちづくりにつながっている。
	目標値の達成状況	平成26年度は7団体の事業を採択し、補助金を交付した。
	次年度への対応	平成27年度も市民活動支援事業を継続し、市民協働のまちづくりを推進する。

## 所管部長（リープロ担当部長）の指示

## 上半期

市民協働のまちづくりを進めるうえで、市民の自主的・自発的活動は重要な役割を担うこととなります。市民活動の育成、支援のため、制度の広報並びに採択団体と市の関係各課との調整に努めること。

## 下半期

市民によるまちづくりの一翼を担う活動団体への支援について、引き続き支援の継続と情報の交換に努めること。

市民協働推進課長の仕事宣言！ 進行管理表

市民協働推進課長 村山 一成

重点事業の概要 [事業名：とす市民活動センター運営事業] [目標値：利用者数 15,000 人]

○この事業は、リープロ3「みんなで進める新しいまちづくりプロジェクト」に位置付けられた取組みで、市民協働のまちづくりを進めるために実施する事業です。市民相互や市民と行政との協働によるまちづくりを推進するため、とす市民活動センターが行う市民活動への参加啓発、市民活動団体育成等、様々な市民活動情報発信基地としての機能充実を図ります。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	フレスポ鳥栖にある市民活動センターの運営に対し補助金を交付し、活動状況等の把握に努めた。同センターの登録団体数は現在90団体で、4月から8月までの利用者は5,814人であった。
	自己評価	とす市民活動センターの自主的な運営、活動を支援した。中心市街地の大規模商業施設内にあるセンターの位置的メリットを活かして、新規の登録団体の獲得や市民活動に関心のある個人の利用を増やしたい。
	下半期への対応	センターの活動の周知など広報に努め、さらに利用者を増やす工夫が必要である。そのため、活動状況等の把握に努め、今後の活動内容等について協議する。
下半期	取組実績	市民活動センターの9月から12月までの利用者は4,854人であり、月平均1,000人以上の利用があった。とす市民活動センターの自主的な運営、活動を支援した。
	自己評価	ショッピングセンター内という位置的な有利性もあり、利用しやすい施設となっている。
	目標値の達成状況	12月までの利用者は10,688人であり、目標の15,000人には届かないものの、前年度より利用者数は増えた。
	次年度への対応	目標利用者数の15,000人を達成できるよう、センターの活動の周知など広報に努める。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

とす市民活動センターの中間支援組織としての役割を広く市民に理解してもらい、活用してもらえるように、様々な機会を利用して広報に努めること。

下半期

とす市民活動センターが、各種市民活動団体からの意見やニーズ、要望などについての情報収集、情報交換など中間支援組織としての機能を高め、市民活動の活性化につながるように継続して支援すること。



## 市民協働推進課長の仕事宣言！ 進行管理表

市民協働推進課長 村山 一成

## 重点事業の概要 [事業名：まちづくり推進センター運営事業]

○この事業は、リープロ3「みんなで進める新しいまちづくりプロジェクト」に位置付けられた取組みで、地域の交流拠点であるまちづくり推進センターを活性化するため、地域の団体や住民との連携及びセンター事業の充実を図るほか、利用者が快適に利用できる環境を整えるため、施設の維持管理に努めます。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	各まちづくり推進センターで行う各種講座や教室等の学習情報をセンターだよりやホームページ、ガイドブック等で市民に提供した。また、施設の有効活用を図るため、鳥栖、田代、基里、麓、旭のまちづくり推進センターで浴室跡をフローリングにする改修工事に着手した。
	自己評価	まちづくり推進センター職員会議などにおいて、事業や施設の状況について定期的に情報の交換と共有を行い、事業を円滑に行っている。また、浴室改修工事は、予定どおりに着手できた。
	下半期への対応	センター事業を計画どおりに実施する。利用者が快適に利用できるよう、施設の維持管理に努める。特に浴室改修を実施した施設の利用促進を図る。
下半期	取組実績	センター事業を計画どおりに実施し、利用者が快適に利用できるよう、施設の維持管理に努めた。また、鳥栖、田代、基里、麓、旭のまちづくり推進センターの浴室改修を実施し、12月から改修した諸室の利用を開始した。
	自己評価	まちづくり推進センター職員会議などにおいて、事業や施設の状況について定期的に情報の交換と共有を行い、事業を円滑に行ってきた。
	目標値の達成状況	まちづくり推進センターの事業の進捗状況や施設の現状について把握し、適切な運営及び維持管理に努めた。
	次年度への対応	センター事業を計画どおりに実施する。利用者が快適に利用できるよう、施設の維持管理に努める。

## 所管部長（リープロ担当部長）の指示

## 上半期

地域の交流や活動の拠点であるまちづくり推進センターの更なる活性化を図るため、地域の団体や住民との連携、センター事業の周知を図ること。また、利用者が安心して快適に利用できるように、施設の維持管理に努めること。

## 下半期

まちづくり推進センターの更なる活性化を図るとともに、利用者が安心して快適に利用できるように、施設の維持管理に努めること。また、浴室を改修した5地区のまちづくり推進センターの諸室については、地域の方たちに利用開始の周知を十分に行い、活用を図ること。

市民協働推進課長の仕事宣言！ 進行管理表

市民協働推進課長 村山 一成

重点事業の概要 [事業名：夢プラン21事業]

○この事業は、リープロ3「みんなで進める新しいまちづくりプロジェクト」に位置付けられた取組みで、市民協働のまちづくりを進めるために実施する事業です。世代を担う子ども達が、地域の支援を受けながら「夢」を実現します。子ども達と支援者が協力して夢を実現していく中で、希薄化する世代間・地域間交流の活性化を図ります

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	「夢プラン21」子ども夢審査委員会と実行委員会を開催し、269件の応募の中から1件の夢を採用した。採用になった夢は「スタジアムのピッチで人文字を作って、みんなで思い出を作りたい」で、10月19日の開催に向けて準備を行った。
	自己評価	子どもたちの夢を周囲の協力を得ながら実現する事業であり、子どもたちがアドバイスを受けながらも、自分たちで文字のデザインや広報ポスターなどを企画した。発案した子どもたちは、学校や駅、市内の商業施設等でチラシを配布し、多くの人に参加を呼びかけるなど、積極的に取り組んだ。
	下半期への対応	人文字作りの協力者を募集し、「夢」の実現に向け実行委員会及び夢実現協力者とともに支援する。
下半期	取組実績	約350人の市民が参加し、10月19日にベストアメニティスタジアムのピッチ上で2種類の人文字を作った。発案した子どもたちは、人文字の写真をプリントしたサッカーボールを、サガン鳥栖の選手に贈るなどした。
	自己評価	発案した子どもたちの努力に応じて、学校や保護者、多くの市民の協力により、夢を実現することができた。
	目標値の達成状況	子どもたちが地域の人達の支援を受け、「夢」を実現するプロセスを通じて充実感や達成感を得ることで健やかな成長を支援するという当初の目的を達成できた。
	次年度への対応	10年間実施したこの事業は、本年度で終了する。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

採用になった夢「スタジアムのピッチで人文字を作って、みんなで思い出を作りたい」の実現のため、子どもたちが行う人文字のデザイン作成や協力者の募集などを支援すること。

下半期

10年間で様々な夢が実現しました。これらの夢の実現プロセスを通して子どもたちの心に生まれた充実感や達成感は、自信につながったと思います。

## 市民協働推進課長の仕事宣言！ 進行管理表

市民協働推進課長 村山 一成

## 重点事業の概要 [事業名：男女共同参画啓発事業] [目標値：講座等の参加者数 1,000 人]

○この事業は、リープロ10「自分らしく、暮らし生き生きプロジェクト」に位置付けられた取組みで、男女共同参画意識を育てるために実施する事業です。性別によって男女の生き方や役割を分ける固定的役割分担意識を解消し、互いに理解しあい尊重する意識を高めるため、男女共同参画啓発活動を推進し学習機会の充実を図ります。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	市報による男女共同参画の啓発、図書館での広報・啓発を実施した。毎月最初の出勤日を男女共同参画推進デーとして、市役所職員に対しても啓発を行った。また、下半期に開催予定の男女共同参画フォーラムやセミナー等の実施に向けて、実行委員会で協議を重ねた。
	自己評価	フォーラムをはじめ啓発事業の開催に向けた準備は順調に進んでいる。セミナー等の参加者を増やす工夫が必要である。
	下半期への対応	とす男女共同参画市民実行委員会等と協働で、10月に子どもとのかかわり方セミナー、11月にデートDVに関するセミナー、12月に男性のための料理教室、来年1月に男女共同参画フォーラム、2月に女性のための政策参画セミナーを開催する予定である。
下半期	取組実績	実行委員会と協働で、10月に子どもとのかかわり方セミナー、11月にデートDVセミナー、12月に男性のための料理入門、1月に男女共同参画フォーラムなどを開催した。
	自己評価	さまざまな広報手段により参加を呼び掛けたが、参加者が少なかった。
	目標値の達成状況	10月から1月までの各講座の参加者は合計で128人であり、目標値は達成できていない。
	次年度への対応	より多くの方に参加していただけるよう、魅力のある講座、フォーラム等の実施及び男女共同参画の広報・啓発に努める。

## 所管部長（リープロ担当部長）の指示

## 上半期

男女行動参画の意識を育て広めていくためには、継続的な事業の取り組みが必要です。仕事、家庭、地域それぞれの状況にあわせて、また、様々な機会をとらえて広報啓発に努めること。

## 下半期

女性が輝く時代と言われますが、女性の活躍を支援するためにも仕事と家庭の両立など男女共同参画について理解を深めることが必要です。これからも積極的に啓発活動に取り組むこと。

市民協働推進課長の仕事宣言！ 進行管理表

市民協働推進課長 村山 一成

重点事業の概要 [事業名：DV防止と被害者支援事業]

○この事業は、リープロ10「自分らしく、暮らし生き生きプロジェクト」に位置付けられた取組みで、男女共同参画意識を育てるために実施する事業です。DVやセクハラ等は犯罪であり人権を侵害する行為であるという理解を深め、その発生を防止するために意識啓発、被害者支援を行います。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	こども育成課と連携して女性総合相談を実施し、DV被害者からの相談を受けた。(市民協働推進課での相談実績：2件)
	自己評価	庁内外の関係会議等に積極的に出席し、関係機関との連携を深めるとともに情報の共有を図ることができた。
	下半期への対応	DV防止の特集記事を市報に掲載する。11月にとす男女共同参画市民実行委員会と協働でデートDVに関するセミナーを開催する予定である。
下半期	取組実績	DV防止の特集記事を市報に掲載した。11月の女性に対する暴力をなくす運動期間中に図書館で広報啓発を行うとともに、実行委員会と協働で、市内中学校の保護者を対象にデートDVセミナーを開催した。
	自己評価	セミナーの参加者は少なかったが、啓発活動を継続することが大切である。市内中学校の保護者に対しては、セミナーの案内とデートDVのチラシを配布し、ホームページにも掲載するなど啓発に努めた。
	目標値の達成状況	DVの現状に関する市民の関心は高いとは言えない状況である。
	次年度への対応	関係課や関係機関との連携を図り、鳥栖市DV被害者支援基本計画に沿って、継続的な啓発活動と被害者支援の施策を実施する。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

DVやセクハラ等は犯罪であり人権を侵害する行為でもあります。その発生を防止するためには、意識啓発と被害者支援を行うことが必要です。DV被害者支援のため、関係機関との連携を深め、情報の共有を図るとともに、女性総合相談を継続すること。

下半期

市役所が、DV被害者の不安を減らし、安心して相談できる窓口となるように、関係機関および関係課との連携に一層努めること。

市民協働推進課長の仕事宣言！ 進行管理表

市民協働推進課長 村山 一成

重点事業の概要 [事業名：審議会・委員会等における女性の参加促進事業]

[目標値：女性委員の比率 40.0% 女性人材リスト登録者数 45人]

○この事業は、リープロ10「自分らしく、暮らし生き生きプロジェクト」に位置付けられた取組みで、男女がともに歩むまちづくりの取組を進めるために実施する事業です。市の政策立案等に一定の影響を及ぼす審議会や委員会等へ女性の参画を図るため、数値目標を設定し、女性委員の登用を積極的に進めます。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	ホームページで、女性人材リストの広報・募集を行うとともに審議会や委員会に占める女性委員の登用状況を公表した。女性委員の比率が40%未満の審議会等の担当部署に、女性委員の積極的登用を呼びかけた。
	自己評価	平成25年度末の女性委員の比率は34.5%、女性人材リスト登録者数22名。目標値達成に向けて一層努力したい。
	下半期への対応	来年1月に開催する予定の男女共同参画フォーラムや2月の女性のための政策参画セミナーなどで女性人材リストの広報・募集を行い、人材リスト登録者には各種セミナーやフォーラムの情報を提供する。
下半期	取組実績	1月に男女共同参画フォーラムを、2月に女性のためのスキルアップセミナーを開催し、女性人材の育成と募集を行った。女性人材リスト登録者には各種セミナーやフォーラムの情報を提供した。
	自己評価	女性委員の比率の目標値を達成するために、広報や女性人材の情報提供をしている。
	目標値の達成状況	審議会等の女性委員の比率40%はまだ達成できていない。女性人材登録数は23名。
	次年度への対応	市の審議会や委員会等へ女性の参画を進めるために、関係課に対して働きかけを行うとともに、様々な機会を利用して女性人材の発掘に努める。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

様々な分野で活躍されている人材の発掘に努め、女性の立場からの意見を行政にできるだけ反映できるよう努めること。

下半期

各種審議会等への女性委員の登用は、女性の社会参画を促し、ひいては、まちづくりに大きく影響すると思われます。女性登用促進につながるような多彩な人材の発掘に努めること。

## 市民協働推進課長の仕事宣言！ 進行管理表

市民協働推進課長 村山 一成

## 重点事業の概要 [事業名：多文化共生推進事業]

〔目標値：国際理解に関する催しの回数 1回以上/年、語学ボランティア登録者数 25人〕

○この事業は、リープロ10「自分らしく、暮らし生き生きプロジェクト」に位置付けられた取組みで、多文化共生のまちづくりをすすめるために実施する事業です。在住外国人のため、日常生活における必要な情報の多言語化に努めます。また、異なる文化や生活習慣を理解するための講座や教室等を開催し、外国人との多様な交流の場・機会の提供を図り、国際理解の推進に努めます。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	鳥栖市地震防災マップや佐賀県生活ガイドリーフレットなど英語による情報を、市役所や市民活動センターで配布し、ホームページでやさしい日本語による外国人住民向けの生活情報を提供した。また、今後の多文化共生施策を実施するために国際交流基本方針を作成した。
	自己評価	外国人住民に対し、より広く情報提供を行うことができた。
	下半期への対応	基本方針に基づき、外国人住民に関する生活情報の収集と提供に努めるとともに、外国人との交流教室を開催する。
下半期	取組実績	国際交流を支援する団体等と協力して、2月に「こくさいカフェ」を開催し、約120名の参加があった。
	自己評価	市民と外国人住民が交流し、異文化を理解するための機会を提供することができた。
	目標値の達成状況	国際理解に関する催しを1回開催した。語学ボランティアの登録者は19名。
	次年度への対応	国際交流を支援する団体等との情報交換を定期的に行い、市民と外国人住民の相互理解を深めるための催しを継続して実施する。また、語学ボランティアの再募集を行うとともに、地域の日本人及び外国人住民の双方に必要な情報提供に努める。

## 所管部長（リープロ担当部長）の指示

## 上半期

市内で生活する外国人住民は年々増加しています。地域住民と外国人住民がともに理解しあえるように外国人住民への生活に必要な情報の提供方法や周りの人たちへの広報について工夫し、多文化共生を推進すること。

## 下半期

外国人住民は増加しています。日本人と外国人との相互理解を深めるため、地域イベントへの外国人住民の参加促進や交流イベント、意見交換会などの実施について、国際交流を支援する団体等と協力して検討すること。

## 市民協働推進課長の仕事宣言！ 進行管理表

市民協働推進課長 村山 一成

## 重点事業の概要 [事業名：友好都市交流事業]

○この事業は、リープロ10「自分らしく、暮らし生き生きプロジェクト」に位置付けられた取組みで、国際性を育む地域づくりを推進するために実施する事業です。ドイツ国ツァイツ市との友好都市交流を通して、市民の異文化への理解と国際性を育み、両市の友好関係を深めます。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	5月25日から6月8日までの日程で、ドイツ国ツァイツ市の中高生10名及び引率者2名を受け入れ、日本の伝統文化体験やホームステイ等による交流を行った。また、9月13日・14日の九州まん祭で、子ども交流事業のパネル展及び昨年参加した日本人生徒による体験発表を実施した。
	自己評価	交流事業参加者は、約2週間のホームステイにより外国の文化や習慣の違いなどを身近に体験し、両市の友好関係を深めることができた。
	下半期への対応	鳥栖・ツァイツ子ども交流事業は、隔年ごとに双方の都市を訪問することになっている。来年度は鳥栖市がツァイツ市を訪問する年となるので、その準備を行う。
下半期	取組実績	ツァイツ市の担当者と連絡を取り合い、来年度の鳥栖市からの子ども交流団派遣に向けての準備を行った。
	自己評価	来年度の鳥栖・ツァイツ子ども交流事業の実施について、ツァイツ市と協議ができた。
	目標値の達成状況	友好都市交流事業として、ツァイツ市の子ども交流団を予定通りに受け入れ、受け入れ家族や市民の協力を得て、参加した子どもたちとの親交を深めることができた。
	次年度への対応	子ども交流事業に参加する中学生、高校生10名を募集し、夏休みの約2週間、ツァイツ市へ派遣する準備を行う。

## 所管部長（リープロ担当部長）の指示

## 上半期

子ども交流事業の継続により参加した生徒も増えています。外国都市との交流は、子どもたちの異文化への理解と国際性を育み、国際的な視野を持つことや意識の醸成に役立つと思います。交流内容について、ツァイツ市と十分に協議、調整を行うこと。

## 下半期

10年を経過した交流事業ですが、さらなる内容の充実に向けて、これまでになかった取組みを工夫するなど、より有意義なものとなるよう努めてください。